



人文字で佐渡の形を表したアルプススタンド

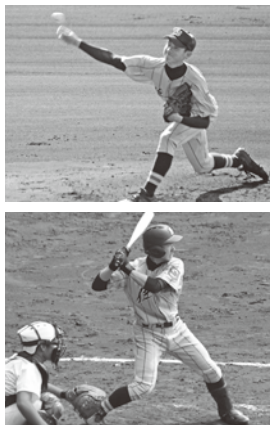


勝利の願いが込められた千羽トキ

島内では大画面による試合の生中継。大声援が送られた。



	一	二	三	四	五	六	七	八	九	計	HE
和智	2	0	0	0	4	1	1	0	8	14	0
弁渡	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3	1
佐											



最後まで全力疾走

佐渡高校 甲子園での戦い

初出場・初得点 智辯和歌山に1対8

第83回選抜高校野球大会が3月23日に阪神甲子園球場（兵庫県）で開幕し、佐渡高校が21世紀枠で出場。「佐渡から甲子園」を胸に努力を重ねてきた佐高ナインがついにあこがれの大舞台に立ち、最後まであきらめない全力プレーを見せてくれました。

今大会は、多くの犠牲者を出した東日本大震災を受け、「がんばろう！日本」をスローガンに開催。開会式では、震災犠牲者に黙とうがささげられました。

佐渡高校は、大会4日目の3月26日、春夏合わせて3回優勝経験のある智辯和歌山と対戦しました。

3塁側アルプススタンドを埋め尽くした大応援団は、色違いのジャンパーを着て佐渡の形を浮かび上げらせ、選手を後押し。

試合は、0対2で迎えた4回に連打で1点を奪うなど、中盤まで互角の接戦でしたが、6回以降に引き離され、初勝利は果たせませんでした。

島育ちの選手たちが強豪を相手に、ひるまず真っ向から挑む姿は、島民をはじめ多くの人に勇気と感動を与えたはず。懸命なプレーに、佐渡がひとつになりました。

甲子園は本当に素晴らしいところだったと部員全員が感じ、自信につながったことでしょう。「夏にもう一度」と佐高ナインの瞳は輝いていました。